

消費動向調査

第7回「山形県家計消費動向調査」(概要※)

※詳細は調査レポート (<http://www.sfsi.co.jp/>) をご覧ください。

1. 調査の目的 県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
2. 調査の方法 郵送調査専用モニターを利用したアンケート調査
3. 調査の対象者 県内に在住する勤労者(サラリーマン)世帯(世帯人数2名以上) モニター世帯数：484世帯*
※有効回答数：450世帯(回答率：93.0%)
4. 調査期間 平成20年3月1日(土)～14日(金)

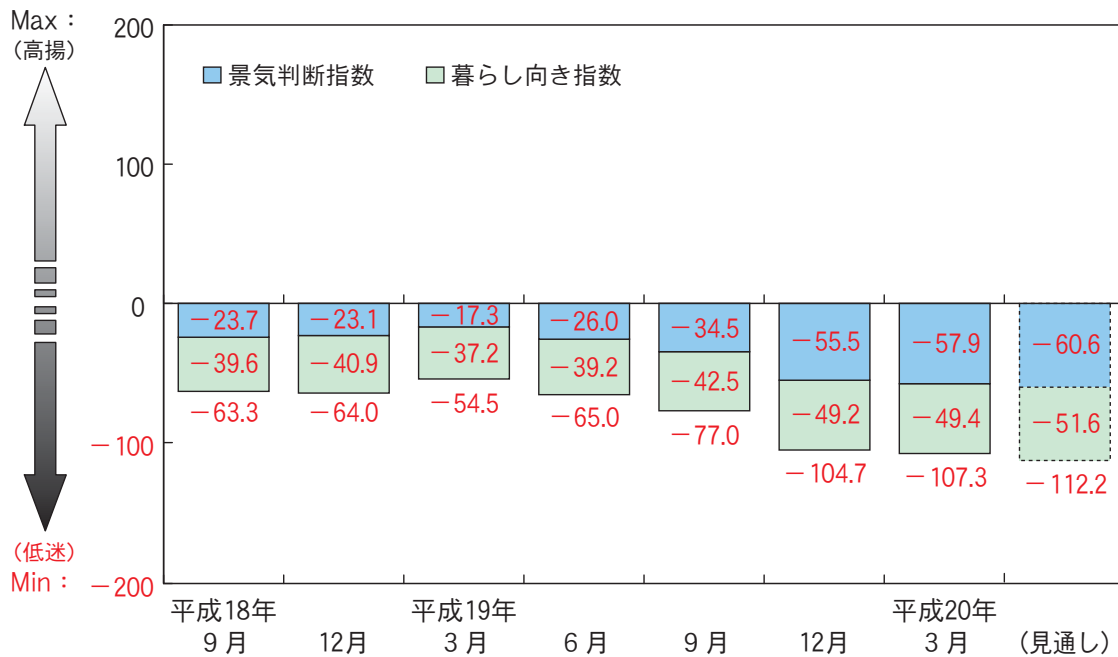
消費指数

★消費指数は▲107.3 ～消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況～

消費指数は前回調査時点(平成19年12月)よりも2.6ポイント低下し、▲107.3となるなど、消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲57.9、暮らし向き指数が▲49.4となっており、いずれも前回より低下した。特に、景気と雇用環境に関する認識が悪化したことがマインド低下につながった。

なお、今後の見通しについても、消費指数が4.9ポイント低下し▲112.2となるなど、消費マインドの悪化が続く見込み。



【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

①景気判断指数(指数レンジ100～▲100)：

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格(物価)」に関する設問の回答結果から作成されます。

②暮らし向き指数(指数レンジ100～▲100)：

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

■ 景気判断

県内景気 現状認識は「悪い」(33.6%)と「どちらかと言えば悪い」(35.1%)が68.7%を占めており、県内の景気に対する不安は増加傾向にある。また、今後の見通しについても「悪い」(39.6%)と「どちらかと言えば悪くなる」(34.7%)を考えている世帯の割合がさらに増え、先行き不安が増大する見込み。

雇用環境 現状認識は「悪い」(29.6%)と「どちらかと言えば悪い」(31.3%)を合わせると60.9%が悪いと判断しており、雇用環境は引き続き厳しさを増している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(33.6%)と「どちらかと言えば悪くなる」(30.0%)を考えている世帯が63.6%となっており、先行きの見通しに対し悲観的な見方を持つ世帯がさらに増える見込み。

日用品価格(物価) 現状認識は「上がった」(77.8%)と「どちらかと言えば上がった」(16.2%)が94.0%を占めるなど、依然として物価上昇を実感している世帯が多い。また、今後の見通しについても、「上がる」(73.1%)と「どちらかと言えば上がる」(20.9%)を考えている世帯が引き続き9割を超えているなど、依然として物価の上昇を憂慮する傾向にある。

■ 暮らし向き判断

世帯(勤労)収入 現状認識は「減った」(40.9%)と「どちらかと言えば減った」(18.9%)が59.8%を占めており、依然として世帯収入は減ったと感じている世帯が増加している。また、今後の見通しについても、収入が「減る」と考えている世帯の割合が増えているなど、収入増加への期待感は薄い。

資産価値 現状認識は「減った」(44.7%)と「どちらかと言えば減った」(21.3%)が66.0%を占めており、資産価値が減ったと感じている世帯の増加が続いている。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」と考えている世帯の割合が増え、資産価値の増加を見込む世帯は依然として少ない。

お金の使い方 現状認識は「控えている」(42.0%)と「どちらかと言えば控えている」(28.4%)が70.4%を占めており、お金を使うことを控えている世帯の割合は増加傾向にある。また、今後の見通しについても「控える」という世帯がさらに増えているなど、節約思考の世帯が一段と広がる見込み。

生活のゆとり 現状認識は「厳しい」(52.2%)と「どちらかと言えば厳しい」(28.2%)が80.4%を占めており、大半の世帯が暮らし向きは厳しいと感じている。ただ、今後の見通しについては、厳しくなると見込んでいる世帯の割合は低下しており、いくぶん回復の期待が先行した。

